



小樽商科学
大

学園だより

商大新体制

スタート!!



● CONTENTS ●

学長就任にあたって..... 1	Active Learning で学ぼう 4
新副学長のご紹介..... 1	小樽商科大学の大学改革について..... 5
小樽商科大学同窓会 緑丘会について..... 2	飲酒事故に注意..... 6
新任教員のご紹介..... 2	商大くんイベントカレンダー..... 7
図書館がリニューアルオープン!..... 3	

■表紙について

今年度から大学の首脳陣が交替し、新体制での大学運営が始まりました。学園だよりのリニューアルを記念して、新学長・副学長に新しく生まれ変わった附属図書館で写真に収まっていただきました。(右から近藤副学長、鈴木副学長、和田学長、大矢副学長) 題字は和田学長に書いていただきました。

学長就任にあたって

平成 26 年 4 月 1 日より、山本眞樹夫前学長の後を継いで学長に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひします。最初に簡単に経歴をお話させていただきます。私は、大学院を卒業後、昭和 55 年に小樽商科大学の講師として赴任し、爾来 34 年間、小樽商科大学で働いてきました。平成 12 年に学生部長に就任したのを契機に、副学長、理事、附属図書館長などを務めることになり現在に至っております。

かつての国立大学は、法令により、組織、授業料、カリキュラムなどが一律に決められていました。これは、全国どこの国立大学に入学しても、安い授業料で、均一かつ質の高い教育が受けられるようにという配慮があったためだと思われます。しかしながら、平成 16 年には、それまで国の組織の一部であった国立大学は、独立した組織(法人)に変わりました。この法人化を契機に、これらの規制も徐々に緩和され、国立大学は、ある程度自由に教育研究、大学運営ができるようになりました。

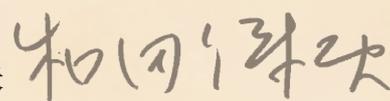
近年は、文化・経済の発展を支える研究機関・人材育成機関としての大学に対する社会の期待が高まり、国立大学は、それぞれの特徴や機能を鮮明にし、強化することが求められるようになってきています。グローバル化が進展する中で、日本社会を支える人材育成機関としての大学の役割は益々高まっています。なかでも、国立大学は、先頭に立って責務を果たし、社会からの付託に応える義務があると思います。

私は、小樽商科大学が、この十数年間、とりわけ法人化以降、教育、研究、社会貢献において、基本的には正しい方向を目指してきたと考えています。それは、「北海道経済の発展に資する人材育成」の大学ということです。現在、国の大学改革実行プランのもと、全国の国立大学において改革が進められていますが、そのなかで、小樽商科大学は、平成 25 年度補助金「地(知)の拠点整備事業」に採択されました。これは、まさに、小樽商科大学のこれまでの取組・大学運営が社会的に認知されたことを意味しています(本学の大学改革の具体的内容は 5 頁をごらんください)。社会科学系の大学として、教育を存立基盤とし、これを高度な研究が支え、社会貢献を果たすことにより、北海道の拠点となることこそ今後の本学の進むべき道であると確信しています。

逼迫する国家財政、少子化、進学率の向上等々、高等教育を取り巻く環境が益々厳しくなっていくなかで、小樽商科大学が「北の一星」として輝き続けるためには、教職員、学生の協働に加えて OB・OG、御父母の方々のご支援が必要です。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平成 26 年 4 月 3 日

第 10 代 小樽商科大学長 和田 健夫



新副学長のご紹介



総務・財務担当副学長
おおや しげお
大矢 繁夫

小樽商科大学卒 / 東北大学大学院経済学研究科
研究分野 / 財政学・金融論
平成 7 年～小樽商科大学商学部教授(商学科)
平成 16 年～大学院商学研究科現代商学専攻長
平成 20 年～国立大学法人小樽商科大学理事・
教育担当副学長
平成 26 年～現職



教育担当副学長
すずき まさひさ
鈴木 将史

北海道大学文学部卒 /
北海道大学大学院文学研究科
研究分野 / ドイツ文学・ドイツ文化
平成 14 年～小樽商科大学言語センター教授
(個別言語部門ドイツ語系)
平成 22 年～言語センター長
平成 26 年～現職



大学評価・産学官連携等担当副学長
こんどう きみひこ
近藤 公彦

同志社大学商学部卒 /
神戸大学大学院経営学研究科
研究分野 / マーケティング
平成 15 年～小樽商科大学商学部教授(商学科)
平成 22 年～大学院商学研究科アントレプレナー
シップ専攻長
平成 26 年～現職

小樽商科大学同窓会 緑丘会について

公益社団法人 緑丘会
公益財団法人 小樽商科大学後援会
理事長 齊藤 慎二

同窓会は小樽商科大学の前身・小樽高等商業学校が卒業生を輩出したおよそ100年前より発足していますが、1939年（昭和14年）に社団法人緑丘会として法人化されました。本部を東京・池袋サンシャイン60ビルの57階に置き、札幌・小樽をはじめ海外も含め27の支部があり、会員は6,000名を超えております。

2008年の公益法人制度改革により、社団法人は公益目的事業が50%を超える法人にのみ公益社団法人への移行を認めることとなり、それ以外の一般社団法人とは寄附税制・法人課税などの公益法人税制の優遇措置において大きく差別化されることとなりました。緑丘会は、次のような目的と事業を掲げ上記の条件を備え、公益社団法人への移行認定を受け2012年4月登記を完了し新たなスタートを切りました。

【目的】

国立大学法人小樽商科大学の行うキャリア支援開発教育に対する支援及び関連事業の運営支援、並びに就職支援事業の企画・運営、資金支援等を通じて、青年産業人材の健全な育成に寄与することを目的とする。この目的を達成するため、次の事業を行う。

【事業】

- (1) 大学生の社会人基礎力養成、就業力育成に関する普及及び啓発を目的とした「キャリア形成支援企業セミナー」の主催運営事業
- (2) キャリア形成支援のための大学における正課教育である「エバーグリーン講座」の運営支援事業
- (3) キャリア形成支援のための高大連携事業実施に係る運営資金の助成事業
- (4) キャリア形成支援のための地域、企業及び卒業生の連携事業実施に係る運営資金の助成事業
- (5) 緑丘オープンセミナーの開催事業
- (6) 国際的な視野に立つ人材育成を目的としたTOEICの受験費用に係る資金の補助事業

- (7) 学生に対しての就職活動資金の貸与事業
- (8) その他公益目的を達成するために必要な事業
(公益社団法人緑丘会 定款より引用)

さらに、1960年（昭和35年）に、財団法人小樽商科大学後援会を設立し、以来国立大学としては他に例を見ない規模で母校を支援し続けて参りました。母校の主たる創立周年を記念して緑丘会会員などに募金活動を展開し、創立80周年にあたる1991年（平成3年）には5億2千万円余を、さらに創立90周年にあたる2001年（平成13年）には1億5千万円余を、創立100周年にあたる2011年（平成23年）には1億2千万円余の募金実績を達成いたしました。また2004年（平成16年）にはビジネススクールの運営を支援するため「ビジネススクール支援募金」を行い4,400万円の募金実績を達成しました。これら募金を原資として毎年1,500万円以上の助成を母校に行い、国際交流の促進、札幌サテライトの開設、ビジネス創造センターの設置、学生寮の建設など特色ある事業を展開し目覚ましい成果をあげて参りました。

これら母校への助成はまさに公益目的事業であるため、本法人も「公益財団法人小樽商科大学後援会」への移行認定を受け、2011年4月に発足いたしました。公益社団法人緑丘会、公益財団法人小樽商科大学後援会の2法人が公益法人として認められた同窓会は、国立大学系としては小樽商科大学が初めての事です。



サンシャイン60ビル

新任教員のご紹介 ①出身地 ②趣味 ③商大での抱負



たなか しんや
商学部経済学科 **田中 晋矢** 准教授

早稲田大学政治経済学部卒 / 一橋大学大学院経済学研究科 研究分野：計量経済学・時系列解析

①千葉県千葉市 ②フォークギター演奏、フォークソング鑑賞 ③自らの学生生活を振り返ると、ゼミ等の諸先生のご指導・ご支援があってこそ今の自分があるのだと実感します。今度は私が諸先生と同じように全身全霊を傾けて商大での教育活動に取り組みたいと思います。



いちはら ひろよし
商学部商学科 **市原 啓善** 准教授

名古屋市立大学経済学部卒 / 名古屋市立大学大学院経済学研究科 研究分野：財務会計、税務会計

①愛知県名古屋市 ②外出（学生時代はサッカーサークル）③在学中の経験から得た知識・人脈・思考は、卒業後のキャリア形成を加速的に進める源泉となり得ます。私のこれまでの経験や知識が、講義やゼミナール等を通して、その一助となればと強く思っています。



ごとう ひでゆき
ビジネス創造センター **後藤 英之** 准教授

小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻修了 研究分野：中小企業における産学連携

①小樽市 ②イタリア旅行、ワイン ③学生時代の小樽はデパートや映画館がたくさんあり、非常に楽しい街でした。現在は人口も減少し、観光も停滞しています。この故郷小樽に恩返ししたい、活性化させたいという気持ちをもちつつ、小樽商大での業務を遂行したいと思います。

小樽商科大学附属図書館 2014年リニューアルオープン 「港が見える図書館で、知識の海を渡り世界を学べ！」

「滞在型の学生の主体的な学びの拠点」として今年リニューアルオープンした図書館は、多様な学びのスタイルに対応した快適なスペースと、学習と教養を高める図書・学術情報資料、そして学生のみなさんの学習をサポートするスタッフがそろった施設です。明るく開放的な図書館に一歩足を踏み入れれば、そこで目にする多くの学生の熱心な姿に、誰でも学びへの意欲がわくことでしょう。

2階

共に学びあう アクティブラーニング

メインフロアである2階は、学生の能動的な学びを意味する「アクティブラーニング」エリアです。グループ学習室、オープン学習スペースなどを備え、学生同士が話をしながら相互に学びあうアクティブラーニング実践の場として活用されています。

ここでは、連日学生たちがホワイトボードやプロジェクターなどを使いながら議論をし、プレゼンテーションをする姿が多く見られます。また、多彩なテーマで講演会やセミナー、研究発表なども行われる場として活用されるとともに、話題の書籍を実物とデジタルサイネージで紹介するなど、様々な方法で学生みなさんの知的好奇心を刺激します。



デジタルサイネージ
休講情報や、大学からの各種お知らせ、新刊図書情報などを投影します。

教育情報発信・地域連携スペース
学習・研究成果の発表、講演会、地域との共同事業成果発表などが行えます。ゼミやサークルの発表などでご活用ください。オープンなスペースのため、幅広い聴衆の参加が期待できます。

グループ学習室
プロジェクター付きホワイトボードが利用できます。ゼミ、サークル活動、勉強会で活用してください。



オープン学習スペース
滞在型学習のため、長時間の利用でも快適なスペースです。無線LANや端末のためのコンセントも備えています。



学習アトリエ
検索端末、コピー機、作業台などを備え、情報の収集、資料作成など行えます。



学習支援カウンター
学生のみなさんの学習相談の窓口です。情報の探し方、レポートの書き方などアドバイスします。クラスライブラリアン制度をぜひ活用してください。

3階

知識を高め、理解を深める プライベート学習スペース

3階は、個人で集中して学習するスペースです。講義の予復習、レポート・論文の執筆など、静かに落ち着いた雰囲気で行うことができるスペースです。学習に必要な図書・学術雑誌が手に取りやすいように近くにあり、閲覧席は他人の存在を気にせず集中できる個室仕様となっています。なんととってもおすすめは海側に面した閲覧席です。小樽の街と港を見下ろし、晴れた日には石狩湾の対岸を望みながらの学習環境は、他では得られない本学図書館ならではの特典です。



学習を支える充実したコレクション

学生のみなさんの学習に必要な図書、雑誌や、電子ジャーナル、データベース等最新の資料を学生や教員の要望に応じて収集・提供しています。また、創設以来100年を超える本学図書館は、これまでその歴史のなかで収集した充実した蔵書を備えています。特に社会科学系では、貴重な文献を多く含む全国でも屈指のコレクションを誇り、その一部は貴重図書として特別に管理し、公開しています。最新の情報から現在を学び、ときには、時代を経ても色あせない古典を繙き、知識や教養を深めることも、図書館活用の醍醐味です。

アクティブラーニングで学ぼう



アクティブラーニングとは

アクティブラーニング（以下、AL）とは、教員による一方的で「受動的な」講義形式の教育とは異なり、学生の「能動的な」講義への参加を取り入れた教授・学習法を意味します。教員から投げかけられた課題に対し、iPadやPCを用いてグループワークを行い、その結果をICT機器で投影することで、即座に教室全体で共有します。それにより、学生の学習意欲の向上や、より深い考察力を養うことができます。



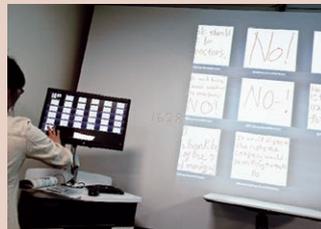
アクティブラーニング（AL）教室と設備

AL教室は全室無線LAN完備、アクティブラーニングをサポートする最先端のICT（Information and Communication Technology）機器が整備されており、教員と学生の双方向での授業が行いやすい環境となっています。iPadはAL教室全体で162台を用意しています。



3壁面スクリーン兼 ホワイトボード、 複数単焦点プロジェクター

プロジェクター投影画面への直接板書や、多面投影による複数の講義資料の同時提示などができます。



コラボステーション（電子教卓）

iPadへの講義資料の提示、また、iPadにより学生の意見を集約管理し、スクリーンへ投影することができます。



ディスカッションテーブル

テーブル型のタッチパネルディスプレイにより、複数人で同時に、映像、画像、プレゼン資料などを使った編集作業や発表が行えます。



BIGPAD（電子黒板）

板書情報の保存、学生への資料提示などができます。



アクティブラーニングの実践

英語科目では、タブレット端末で教員と相互にコミュニケーションをとりつつ、グループワークで検討した結果を英語スピーチ（プレゼンテーション）で発表します。このような取組みは、コミュニケーション能力の開発に役立っています。



3年次・4年次で受講できる研究指導（ゼミナール）では、身につけた知識をフルに活用し、他大学のゼミナールとの合同ディベート大会が開催されています。



専門科目では、ICT機器を利用し、教員と相互にやり取りしながら課題について検討するとともに、グループワークで導き出した結果や意見を、ツイッターを利用して教室全体で共有するなど最先端の講義スタイルが展開されています。



タブレット端末やICT機器は、学生同士の勉強会や部活・サークルのミーティングにおいても積極的に利用されています。



小樽商科大学の 大学改革に向けた取り組みについて

グローバル化、少子高齢化の進展、新興国の台頭による競争激化という社会経済状況の変化の中で、文部科学省から「大学改革実行プラン」、「国立大学改革プラン」が示され、その中で各国立大学の機能強化が求められています。

小樽商科大学では、大学の強みや特色、社会的役割を踏まえ、教育課程・教育方法・教育組織の改革などによって大学の機能強化を一層推進し、社会の課題解決に貢献する**地域の教育研究拠点**を目指し、次の取組事項を着実に実施して、機能を強化していきます。

学部教育

●充実した留学制度とグローバルマネジメントコース

学生がグローバルに活躍できる人材になることを期待して、世界14ヶ国にある大学との協定を結び学生が留学できる環境を整備しており、毎年約50名が派遣されています。

また、選考のうえ1年次生に奨学金を支給し、20名をニュージーランドにあるオタゴ大学へ派遣する3週間の短期英語研修も行っています。



(ニュージーランド・オタゴ大学への研修)

さらに、これらの環境を土台に、在学中の4年間をとおして地域（ローカル）に通じながら世界的（グローバル）に活躍し、北海道経済に貢献できる人材を育成するため、短期留学と長期留学を組み合わせた教育課程「グローバルマネジメント（仮称）コース」を平成27年度から試行実施を予定しています。

●双方向授業・問題解決型授業、学生参加型授業を通じたアクティブラーニング

本学では学生が能動的に学習するアクティブラーニングを促す教育方法の改善を進めていますが、そのために最新のICT（情報通信技術）機器を備えた教室を多数整備し、平成25年度には図書館を改修し、学生の効果的な自学自習を支援しています。

●課題解決型の教育

地域の自治体、地域経済団体及び企業から課題を受け、社会人と協働して解決策を見つけていく授業などを展開し、学生が主体的に学ぶ意欲を育てています。

●実践的な語学教育

英語等の語学学習において、コンピューターを利用した独自のe-Learning教材を開発し、学生が自学自習できる環境を整備しています。教材は多くの企業で採用されている資格試験TOEICの点数を上げられるよう設計されています。

また、最新のニュース映像や音楽等のデジタル素材や海外にある協定大学間で双方向通信による授業を行うことを組み合わせた実践型Blended（ブレンディッド＝ブレンド型）ラーニングによる語学教育方法の開発に取り組んでいます。



(地域連携キャリア開発での成果発表)

研究

学部・研究科と連携するビジネス創造センターを中心に、北海道経済の活性化に寄与する組織的な地域研究を一層推進します。

地域の教育研究拠点

本学のこれまでの教育、研究及び社会貢献の実績と今後、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めることで、大学の機能分化を推進し、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成を目指していく本学の取り組みが評価され、文部科学省から、平成25年度から29年度までの5年間「地(知)の拠点整備事業」(総額約2.3億円)として重点的に支援を受けています。



※本学の「地(知)の拠点整備事業」概要については、**本学のウェブページ** <http://www.otaru-uc.ac.jp/coc.html> も合わせてご覧ください。

保健管理センターからのお知らせ

危険な「イッキ飲み」、 「アルハラ」をなくすために

一昨年、本学で飲酒事故があり、一人の若く貴重な命が失われてしまいました。

私たちはそのことを深く心に刻まなくてはなりません。

未成年飲酒や飲酒運転、飲酒の強要は、明らかに社会のルールに反する行為です。

万が一、こうした行為に巻き込まれそうになったとしても、雰囲気流されるのではなく、毅然とした態度で＜NO＞を表明し、自身と周囲の人たちの未来を守ってください。

保健管理センター所長 杉山 成

アルハラの定義 5 項目 アルハラとはアルコール・ハラスメントの略。飲酒にまつわる人権侵害。命を奪うこともある。

1. 飲酒の強要	上下関係・部の伝統・集団によるはやしたて・罰ゲームなどといった形で心理的な圧力をかけ、飲まざるをえない状況に追い込むこと。
2. イッキ飲ませ	場を盛り上げるために、イッキ飲みや早飲み競争などをさせること。「イッキ飲み」とは一息で飲み干すこと、早飲みも「イッキ」と同じ。
3. 意図的な酔いつぶし	酔いつぶすことを意図して、飲み会を行なうことで、傷害行為にもあたる。ひどいケースでは吐くための袋やバケツ、「つぶれ部屋」を用意していることもある。
4. 飲めない人への配慮を欠くこと	本人の体質や意向を無視して飲酒をすすめる、宴会に酒類以外の飲み物を用意しない、飲めないことをからかったり侮辱する、など。
5. 酔ったうえでの迷惑行為	酔ってからむこと、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラ、その他のひんしゆく行為。

※一つでもあてはまったら、アルハラになります。

宴会主催者・参加者の「5つの責任」

- 1 アルハラをなくすこと。飲酒にまつわる嫌がらせ・人権侵害をしない。飲めない人への配慮として、ノンアルコール飲料を用意すること。
- 2 吐く人を出さないこと。「吐けば大丈夫」という考え方は非常に危険であると認識する。限界以上に飲ませないよう心がけること。
- 3 酔いつぶれた人が出たら、介抱し、保護すること。決して放ったらかしにしてはいけない。救急医療に連絡するなどの対処をとること。
- 4 未成年者に飲酒させないこと。法律で禁止されている。20歳未満は身体が未発達なため、飲酒による影響が大きいということを忘れないこと。
- 5 車を運転する予定の人に飲酒させないこと。飲酒した人はもちろん、勧めた人も法的に罰せられる。飲酒運転が惨劇を生み出すことを理解すること。

出典：イッキ飲み防止連絡協議会ホームページより（一部改編）

INFORMATION

当センターではアルコールについて正しい知識を学べる DVD の放映と、「アルコールパッチテスト」を 6 月中旬頃に開催する予定です。（詳細は後日掲示等でお知らせいたします）アルコールを代謝する能力の違いは生まれつきの体質が関係しています。まずは簡単な検査で自分の体質を調べてみませんか？ みなさんのご参加をお待ちしています。



保健管理センター



商大くんイベントカレンダー

小樽商科大学には魅力あるイベントが満載です。
それでは、その一部をここでご紹介しましょう!

(学園だより学生編集員 藤本拓也)



学生自治会が中心となり、オリエンテーションやサークル説明会を行います。大学の雰囲気を知る絶好のチャンス!

4月
入学式
新入生歓迎イベント

5月
学生大会・学生総会

「北の早慶戦」とも呼ばれており、商大と北大の体育系サークルが一戦を交える一大イベントです。イベントに先がけて応援団の対面式が行われます。



年に一度の伝統的なお祭りです。様々な屋台やイベントが、学内、学外を問わず全ての人を楽しませてくれます!



6月
対北大総合定期戦
緑丘祭・緑宵祭

7月
前期期末試験

8月~9月
夏休み

10月
国際交流週間

11月
定期演奏会

大学主催で留学生の皆さんと様々な交流イベントを開きます。毎年恒例のハロウィンパーティで、より交流が深まること間違いなしです!



12月
インナーゼミナル大会
LA
冬休み

1月
学科選択

2月
後期期末試験
受験生応援活動

3月
学位記授与式
春休み

定期試験が終わると、待ちに待った夏休みです。大学の夏休みはとても長いので、充実した日々を送れるようにきちんと計画を立てましょう。



音楽系、文科系サークルの日々の練習の成果を発揮するイベントです。素晴らしい演奏を聴かせてくれます。じっくりと堪能しましょう!



各ゼミナールが自分たちの研究成果を発表し、話し合うイベントです。意見を交わすことで、より実践的な学問の場となるでしょう。



LAとはリーダーズ・アッセンブリーの略で、各サークルのリーダーが一堂に会してリーダーとしての資質向上を旨として研修を行います。



中学、高校で言う卒業式です。お世話になった先輩方との別れの時...悲しくても笑顔で送り出してあげられる、そんな先輩と出会えるといいですね。



1年生の皆さんは、2年生になるにあたって、4つの学科のどれかに所属しなければなりません。今後3年間何を学ぶかが決まる重要な選択ですよ!よく考えて決めましょうね。



編集後記

今号から「学園だより」リニューアルです。大幅なリニューアルで驚かれた方も多いと思いますが、今年度から「学園だより」は年2回、春号秋号の発行となります。対象読者層も学生から保護者まで広げて、大学の教育情報を中心に発信していきますので、これからもよろしくお祈りします!
(学務課)

小樽商大の新鮮な情報を毎日発信!

ブログ「商大くんがいく!」



商大職員とブログ学生スタッフがタッグを組んで作っている大学公式ブログ「商大くんがいく」では、商大生の活躍はもちろん学内の様々な旬なトピックスがご覧になれます。
<http://www.otaru-uc.ac.jp/shoudai-kun/>